

キリストのうちに歩み、根ざし、建てられる

2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。2:8 あのむなししい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。

母国について最も誇りに思うことは何ですか？自分がこの場所に生まれてよかったと思うことは何でしょう？母国について批判的なことがすぐに思い浮かぶ人は少なくないと思いますが、誇りに思うことは何でしょう？母国の将来を心配するようなことがあっても、私たちは皆、自分の出身地と深く結びついているものです。それは、私たちが誰であるかということの重要な部分を形成しています。同胞と共有する「アイデンティティ」が私たちが形成しているのです。それはどうしようもないことです。私たちは同じものを聞き、同じ本を読み、同じ映画を見て育ちます。そして、良くも悪くもその思い出を、同じ時代を生きた人々と共有するので、たとえ自覚がなくても、私たちは自分の国籍を大切にしています。同じように、クリスチャンにも、私たち全員が共有する「アイデンティティを形成するもの」があります。洗礼で授かった約束があり、キリストの体と血を分かち合うことでキリストに近づくことができ、神の子を信じる信仰によって生きているのです。

今日の聖句は、クリスチャンであることの意味についての長い説明です。使徒パウロが教会に言おうとしていることはコロサイ 1 章と比べて大きな違いはないと思いますが、救いをどのように説明しているかが重要です。パウロは、これから直面する霊的な試練に対して、教会を動機づけ、準備させようとしています。コロサイ 1:28-2:1 で見ましたが、使徒パウロは、教会をキリストにあって成熟させるために努力しています。パウロは、キリストを知ることが成熟するための鍵であると信じていたようです。コロサイ 2:6-15 では、パウロは再びキリスト・

イエスというお方とその御業に触れています。ここでは救いについてもっと詳しく説明されています。今回は8節を飛ばして、16節から23節を学ぶ時にあわせて見ていきたいと思えます。なぜこのようにするかというと、使徒パウロ自身の見方がそうだからです。8節にある教会に起こりうる課題についてのこの一つの言及は、キリストの働きについての大きな描写に飲み込まれています。パウロは、私たちの主キリスト・イエスにおいて教会が確立されるように努めました。誰かが信仰を告白したらそれで終わりではありません。パウロは、ローマ帝国全土に広がるすべての教会に、成熟したクリスチャンが満ち溢れることを願っていました。キリストに根ざした人（と教会）だけが堅く立つことができることを彼は知っていたのです。キリスト・イエスに堅く立つ人は、いのちと赦しと新しい国籍を得ているのです。

6-7節でパウロは、命令をもって手紙の続きを綴っています。それは厳しい命令ではありません。励ましです。

「2:6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあつて歩みなさい。2:7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。」

キリスト・イエスに根ざし、建てられながら歩むように、という励ましです。この3つの表現は成熟を指す隠喩です。歩むとは、キリストにある人生を生きること、根ざすとは、神の恵みという土から私たちの人生が成長することです。建てられるとは、成熟に向けて建てられるときに、私たちの足元に適切な土台があることを意味します。この3つの比喩は、強さ、一貫性、そして活力を意味します。本当に価値がないと思う建物にお金をつぎ込む人はいません。私たちの人生をキリストに根ざすためには、神の御言葉の深遠なる井戸から深く飲んでいくことが必要です。私たちがこの世を忠実に歩むためには、立ち上がる強さと、自分の足がどこに向かうべきかという感覚を持つ必要があるのです。

パウロは、コロサイの人たちがこのようなことを教えられた、と言っています。一世紀当時、彼らはどんなことを教えられていたのでしょうか。私にとっては、まだ深く調べられない分野です。今後、個人的に勉強する時間を持って、初代教会の著者たちに注目するつもりです。

新約聖書から分かることは、初期の弟子たちは毎日集まって使徒たちの教えを聞き、祈ったということです。彼らは食事を共にし、互いに助け合いました。それ以上のことは私にはよくわかりません。しかし、使徒パウロの励ましはシンプルでした。最初から教えられたように、それらのことを続け、あなたがたが主キリスト・イエスにあることを神に感謝しなさい。感謝をささげることは、ごく自然的なクリスチャン生活の一部です。私たちはすべてのことに対して神に感謝を捧げます。神に感謝を捧げないクリスチャンには私はあまり会ったことがありません。ある状況において、私たちに代わって神が行動してくださるといふ期待を持つとき、感謝が無いという問題が現実味を帯びてきます。もしそれが実現しなかったり、欲しいものが手に入らなかったりすると、私たちは神に対して怒りが湧いてくるのです。ある苦難を経験した後、励ましを受けることもあるでしょう。そのような励ましを困難が去ってから受けるのでは遅いと思うかもしれませんが、しかし、私たちが困難な状況を乗り越え、信仰が揺らぐことなく、正しさを失うこともなかったとわかったら、主が私たちを忠実に守ってくださったことに感謝すべきです。感謝にあふれ、キリスト・イエスの恵みと知識において成長しなければなり

ません。私たちは、教えられた神の御言葉にしっかりと立たなければなりません。パウロは教会に、自分たちが教えられたことを堅く守るように言いました。私たちも同じようにしましょう。アーメンですか？アーメン！

パウロは、キリストにしっかりと建てられるようにという命令から、偽りの教えの誘惑についての警告へと移行します。その誘惑は、キリストと私たちの身代わりとなったキリストの働きから私達の注意を遠ざけるものです。キリストとその救いの御業について一緒に考えてみましょう。

コロサイ 2:9-15 にある教えは明確であると同時に、聖霊の靈感による御言葉として、私たちを悩ませるものでもあります。教えが明確であるというのは、この箇所では救いが神の御業であることが明らかにされているからです。しかも、私たちは、キリスト・イエスにおいてのみ、新しいいのちと罪の赦しを受けるのです。ここの主要メッセージを見逃してはいけません。救いは割礼やバプテスマにあるのではなく、キリスト・イエスのうちにあるのです。私たちを悩ませる部分があると言ったのは、割礼や洗礼について言及することが、私たちにとってそれほど慣れないことだという意味です。例えば、あなたが誰かに救いのことを説明するとしたら、どのようなことを言いますか？どんな比喻を使うでしょう？罪の力からの解放、見えるようになること、借金の帳消し、新しいいのち、溺れているところを救われる、子羊の血で洗われる、買い戻された...などが、私の思いつく救いのイメージの例です。主キリスト・イエスにある救いの現実を表現する方法は、実にたくさんあります。パウロはここで割礼とバプテスマを使うことを選択したのです。割礼とバプテスマについて難しいと感じるのは、これらのことを私たちは行いと結びつけ、神の行いと結びつけないからです。創世記 17 章で、神はアブラハムに割礼を受け、その子孫すべてに割礼を受けさせるよう命じています（創世記 17:10-11）。神は、これが神とアブラハムとの契約のしるしだと言われました。申命記 30 章 6 節にこうあります。

「30:6 あなたの神、【主】は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽くし、精神を尽くし、あなたの神、【主】を愛し、それであなたが生きるようにされる。」

バプテスマは、旧約聖書では命じられていないので、いま一つ難しいですね。しかし、新約聖書の洗礼に関する言及は、洗礼に大きな霊的重みを与えています。洗礼者ヨハネはルカ 3:3 で「罪の赦しのための悔い改めのバプテスマ」を宣べ伝えています。イエスは、ヨハネ 3:5 で、私たちは「水と御霊によって生まれる」必要があると言っています。

またペテロはペンテコステの日に群衆に向かって、

「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう（使徒 2:38）」と言っています。つまり、新約聖書ではバプテスマは霊的に重い意味を持っているのです。同様に、割礼も新約聖書では霊的な意味を持っています。パウロは繰り返し、単なる肉の外見だけの割礼と内なる割礼とを比較しています。コロサイ 2:11 では、このような表現がなされています。私たちが答えなければならない問いは、この箇所では実際にパウロは割礼とバ

プテスマについて話しているのか、それとも、私たちが救いについて比喻を使うのと同様に、それらをたとえとして使っているだけなのか、ということです。

少なくとも、パウロは割礼とバプテスマを、キリストにある神の救いの業の比喻として使っています。パウロがバプテスマを救いの方法として強調しているのではないことを物語るいくつかの手がかりが聖句にあります。まず、12節で、私たちは「キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされた」と述べています。そして、7節でパウロは「教えられたとおりの信仰を堅くし、」と述べています。問題は、なぜパウロは、救いを別の比喻で表現しないのだろうかということです。なぜ、現代でよく使われるような比喻を使わなかったのでしょうか。私個人的には、負債を帳消しにするとか、新しく生まれ変わるとか、そういうことの方が神の力強い働きをより明確に表現しているように思えます。

問題の一つは、私達が初代教会のように洗礼を強調していないことです。また、割礼や異邦人を教会に含めることについて大きな論争があるわけでもありません。ヨハネ3章での水と御霊によって生まれるというイエスの言葉と、ペテロの罪の赦しのための洗礼という言葉は、初期のクリスチャンの間で洗礼が果たしていた今とは異なる役割の例として見ることはできないのでしょうか。洗礼は救いの象徴というよりも、その救いの現れです。私たちはしばしば洗礼を人間の業と見なします。これはバプテストの教えが世界の教会に及ぼした影響です。

確かに、信者は洗礼を受けることを選択しなければなりません。しかし、真のバプテスマは真の割礼のように施されるものです。それは手によるものではありません。神によるものです。キリストを信じる信仰は重要な役割を果たしますが、信仰だけが洗礼をさずけるものではありません。イエスを信じる者が水を受けることによって、その人が神の民であることを示すのですが、その水はその人の罪を洗い流すという深い霊的な仕事をしているのです。ここで注意したいのは、洗礼がなければ人は救われないかのように聞こえてはいけないということです。バプテスマが自動的に人を救うわけではありません。しかし、バプテスマの本質には、外側の行い（水を人にかけること）と内側の現実との間のつながりが不可欠です。埋られ、洗われ、よみがえり、新しいいのちの中を歩むことが、バプテスマで起こることなのです。バプテスマには約束があります。その約束は水の中にあるものではありません。約束はキリスト・イエスの中にあります。バプテスマの力は、あなたや私に依存するものではありません。バプテスマを行う人の質や聖さに依存するものでもありません。それは神の御業です。救いは初めから終わりまで主のもので、それは神の計画です。キリストの御業です。聖霊が人を悔い改めと信仰に導かれることです。三位一体の神が、罪人をすべての罪から洗いよめ、新しいいのちをもたらしてくださるのです。

洗礼＝救いとすることはできませんし、洗礼を単に救いの比喻にすることもできません。もっと深いものなのです。これが、コロサイ2:9-15でのパウロの生き生きとした描写です。この世に救いをもたらす神の真の霊的奥義について語っているのです。キリスト・イエスにあって、私たちは神そのものに出会います。パウロが「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。」と言っているのは、ただそう見なしているのではなく、最

も深い真理を語っているのです。パウロは、他の神への道は見つけることはできないと言っています。キリストの完全な権威と力を再び宣言しているのです。もし私たちが真の神を知りたいければ、イエスのもとに行くのです。イエスのうちに神を見出すからです。キリストにおいて、私たちは変えられます。キリストにあって、私たちは満たされます。新しいアイデンティティで満たされるのです。外見上、私たちは変わりません。私たちがキリストによって満たされたときも、私たちの外見は変わりません。変化は私たちの心の中で始まります。

割礼は、神の手によって心の中で行われます。「肉の体を脱ぎ捨てる」のです。パウロは「肉」という言葉をいろいろな意味で使っています。ここでは、私たちの中で罪に支配されている部分を指しています。そのすべてが切り捨てられ、神の力強い働きが行われるのです。私たちはキリストとともに葬られ、キリストのうちに歩むためによみがえらされます。新しい命が与えられ、罪が赦されるのです。これが、真の神の御業です。キリストの十字架上の死は、私たちを支配する罪の力を打ち砕きました。14節によると、キリストは「私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました」とあります。

救いは主キリスト・イエスによって世にもたらされました。その訪れ方を決して間違えてはなりません。道徳的であったり、まっすぐな生き方をしたりしているときに救いがやって来るものではありません。宗教的な儀式に参加することによってもたらされるのでもありません。他の人から受け継ぐものでもありません。救いはキリストにあって与えられるのです。これがこの箇所での重要な言葉です。「キリストにあって。」キリストにあって、私たちは神と出会うのです。キリストにあって満たされ、キリストにあって変えられ、キリストにあって生かされ、キリストにあって赦されるのです。「キリストにあって、キリストにあって…」この言葉を聞き飽きてしまいそうですか？

キリストにあるということがどういうことなのか、よく考えたことがありますか？ほとんどの人が、主を知るということについて考えたこともないことでしょう。霊的な存在に支配されなくても、人生には十分色々なことがあります。しかも、人間として誰もが持っている罪悪感や必要に対して、簡単に答えを出せるという人がたくさんいます。このようなことを耳にしたことがある人もいないのでしょうか。「宗教的な考え方は原始的だ」「今の私達の方がもっとよくわかっている」「私たちの方が、より洗練されている」「今は科学がある」「取り囲む世界を観察することだってできる」「病気を治すことができる」「大きな問題を解決する方法を見出すことができる」人間にはいろいろなものがあり、人は「神様は邪魔なだけだ」と思っているのです。

一方、キリストのうちに、他では得られないものがあると言うのがクリスチャンです。キリストには贖いが、キリストには新しいいのちが、キリストには罪が赦される道があります。福音の召しはシンプルです。主イエス・キリストの名を呼び求めれば、救われるのです。福音の召しは単純でも、本当に呼び求める人はほとんどいません。その理由はたくさんあります。まず、すべての人が福音を耳にするわけではないので、応答することができないのです。福音を耳にする人がいたとしても、福音のメッセージが根ざすことができません。人間の心はとても硬いので、最も美しい愛の表現でさえも心に浸透しないのです。また別のグループの人たち

は、福音のメッセージを聞き、その内容を喜びます。しかし、この人たちは、他の人々が自分についてどう思うかを常に気にしており、困難が訪れると、他の人々の期待に応えるため枯れてしまうのです。さらに別のグループが存在します。このグループは、この世のことを心配しているので、結局、キリストから徐々に離れていってしまいます。しかし、もう一つのグループがあります。

人間の心はあらゆる策略と欺瞞に満ちています。福音を聞いた人がどのような行動をとるかを予測することは困難です。正直に言うと、私達は自分自身の心の中で何が起きているのかを表現することが難しいのです。皆さんに励ましを与えましょう。人間の心は主から離れる傾向にあるのですから、皆さんがまだ主に引き寄せられていることを喜ぶべきです。もしキリストとその働きについて聞きたいと思うようになったら、三位一体の神について知りたいと思ったら、これらの霊的な事柄に興味があるのなら、神に感謝すべきです。あなたはこの最後のグループの一員でしょう。心を柔らかくして、愛するように訓練してくださるのは、主であることはおわかりですね。あなたを育てて、福音があなたの人生を形作るようにされるのは主です。福音を聞いて、それに引き寄せられたら、イエスのところに来てください。自分の心が冷えていくのを感じる時、疑いが襲ってくる時、イエスのもとに来てください。イエスにあってのみ、イエスのみが、私たちが本当に必要としているものなのです。

クリスチャンの皆さんには、こんな励ましの言葉があります。世はあなたの背ろにあります。私たちはこの人生を旅しているのです。いたるところに危険があるように思われます。しかし、私たちはキリストのうちにおり、キリストも私たちのうちにおられます。その死によって、イエスは世に打ち勝ったのです。洗礼によるキリストとの結合を通して、私たちはキリストとともに世に勝利したのです。コロサイ 2:15 「2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

三位一体の神は権力ある者を試みましたが、しかし彼らはキリストに敵いませんでした。キリストが勝利されたのです。キリストにおいて、私たちはこの勝利を分かち合っています。そうです、これから多くの試練があるかもしれません。彼らは私たちの救い主を殺したのですから、私達も殺されるかもしれません。しかし、キリストは正義で罪なきものであったために、勝利を収めたのです。キリストにあって、私たちは正義であり、罪なき者です。私たちは、キリストを信頼し、キリストのうちに堅固でありましょう。